

総合的な学習の時間

○ 学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくり

総合的な学習の時間では、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することを目指す。

【『小・中学校学習指導要領解説（総合的な学習の時間編）「改訂の趣旨」』を踏まえた課題】

- ・総合的な学習の時間と各教科等の相互の関わりを意識し、学校全体で育てたい資質・能力に対応したカリキュラム・マネジメントの推進
- ・探究のプロセスを通じた一人一人の資質・能力のより一層の向上

↑

「個を活かす協働的な学び」の実現 「個に応じたきめ細かな指導」の充実

「授業づくりの三訓」を生かして（例）

しかけて待って	語らせずないで	認め励ます
<p>■目標を実現するにふさわしい探究課題を設定する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題 ・地域や学校の特色に応じた課題 ・児童生徒の興味・関心に基づく課題 <p>◇手立ての例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実社会や実生活に関わる内容を取り上げる。 ・事前の計画に必要以上に縛られない柔軟で闊達な授業を展開する。 	<p>■「考えるための技法」が活用されるようにする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他者と協働して問題を解決しようとする学習活動 ・言語により分析し、「まとめ表現」する学習活動 <p>◇手立ての例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人が試行錯誤しながら着目点を考えられるよう支援を工夫する。 ・児童生徒の習熟の状況等を踏まえ、紙（カード、付箋紙、ウェビング）などで可視化、操作化する。 	<p>■具体的な児童生徒の姿から評価規準を設定する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・信頼される評価の方法 ・多面的な評価の方法 ・学習状況の過程を評価する方法 <p>◇手立ての例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間や単元のまとまりを通して、一定程度の時間数の中において評価する。 ・探究の過程を通してどのように学んだかを見取る。 ・一人一人が学習を振り返る機会を適切に設定する。

ICTの活用について

探究的な学習過程においては、コンピュータや情報通信ネットワーク等を適切かつ効果的に活用して、情報を収集・整理・発信する等の学習活動が行われるように工夫すること。その際、コンピュータで文字を入力する等の学習の基盤として必要となる情報手段の基本的な操作を習得し、情報や情報手段を主体的に選択し活用できるように配慮する。

課題の設定	デジタルデータによる学習課題の具体的なイメージや焦点化等 ※グローバルな課題、ローカルな課題、情報の蓄積による個に応じた課題の設定が可能
情報の収集	ウェブブラウザによるインターネット検索等 ※多様な情報、大量の情報、最新の情報、加工しやすい情報を、いつでも、どこでも、素早く、手軽に調査し収集することが可能
整理・分析	表計算ソフトによるデータ等の整理・分析、グラフの作成、プレゼンテーションソフトを使った図の作成や情報の整理等 ※デジタルデータを検索、分析するなどして情報を再構成したり、プログラミング的思考を育成したりすることが可能
まとめ・表現	文書作成ソフトによるレポート、論文等の作成、プレゼンテーションソフトを使った発表等 ※校内のみならず、国内外への多様な発信、手軽な制作と加工の繰り返し、成果物の継続的な蓄積が可能